

市教委との懇談会を 開催しました

(市P連事業部会 常任委員 筆)



令和5年度倉敷市PTA連合会(以下、市P連)と倉敷市教育委員会(以下、市教委)との懇談会が10月24日(火)10:00～倉敷市役所において、市教委からは仁科教育長他9名、市P連9名 倉敷市公立幼稚園・こども園連絡協議会(以下、市幼・こP)2名、事務局3名の計19名にて開催されました。

開会にあたり市P連山口会長の挨拶に引き続き、仁科教育長からご挨拶を頂きました。その中で「私の教員時代に学校がかなり荒れていた時代があり、PTAの皆様から、なんとか学校を助けることは出来ないだろうか毎日粘り強いご支援ご協力をいただき、3年ほどかかりましたが、少しずつ平穏な日々を取り戻していったという感謝しかない経験があります。現在の子どもたちを取り巻く環境は、ゲームやスマホなど一人で出来るツールが発達し人との繋がりが希薄になっており、我々の目に見えないところで起こる影響が心配な状況ですので、学校、幼稚園だけでなく、保護者の皆様、あるいは地域の協力をお借りしながら一体となって子どもたちを見守っていく必要があるんじゃないかと思っています。」と言われていました。

懇談では市幼・こPから「なぜ教職員の人数を増やすことができないの?」と聞いたところ「人材不足の面や、産休育休に入られるもしくは病気休暇で休まれる方の代わりがなかなか決まらず、ハローワークや大学に問い合わせをしたり、退職された方にも随時連絡をして働きかけをするなど、常に人を探しているという状況が続いています。」と言われていました。

また「教職員の産休育休明けの復職率が低いと感じるのですがなぜ?」と聞いたところ「諸事情あると思いますが、子育て等との両立が難しいというのが大きな理由の一つだと思います。働き方改革ということで、いろいろな業務を削減、見直しをして、働きながら子育てができる環境を作り上げているところです。また、事務的なこともやっていただける園補助員を配置することで対応しています。」と言われていました。

その他、クラスの定員のこと、特別支援や学級支援などの支援のこと、預かり保育の拡充のこと、給食や外部弁当導入の可否など、いろいろ教えていただきありがとうございました。

市P連からは山口会長が「PTAの任意加入問題」について経緯と現状を説明しました。「PTAの活動を見直すのがすごく大事で、それぞれ単位PTAが見直しを行った後で入会届を出す形式がいいのかなと思います。」と方向性や方法をお伝えしました。市教委からは「PTA活動の課題や改善、任意加入などについて、保護者からの率直な意見をききたい。」とのことで、常任委員より、ある小学校がPTAという名前をやめてサポーター制度に移行している現状の説明や、【教員の働き方改革】と【教員とPTAの関わり】のバランスの難しさについて話しました。その他、個人情報の取扱いについてや教育委員会と市P連との連携について、また下校時の安全についてなど話しました。



今回の協議では、任意加入問題、教員の人材不足、働き方改革、個人情報の取扱いなど難しい議題が多く、すぐには解決できない問題ばかりでしたが、PTAが変わろうとしている過渡期中で、先生たちの現状や状況、考え方を知ることが出来たのはとても有意義な時間でした。特に一般の保護者は先生側の視点や状況を知る機会がなく「先生は〇〇するのが当たり前。」という様な話をよく聞きます。知らないと考えにかい離が生まれやすいので、PTAを任意加入にする上で保護者が主体的に学校運営や行事に関わっていくには、より一層先生方と密に連絡を取る必要があると思いました。